“立ち会い”ができる病院を選択　その日を待つ家族

感染者が爆発的に増える第6波での出産の現場は難しい判断が続いています。兵庫県西宮市に住む北中禎子さんは今、4人目を妊娠しています。

この日、西宮市の病院「サンタクルス夙川」へ健診に訪れました。次男の成喜くん(5)が付き添います。

今、多くの病院では家族であっても出産の立ち会いができない状況が続いていますが、西宮市のこの病院では家族の立ち会いを認めています。

Kindel
ブランド古着の 査定 なら、絶対の自信があります!

(サンタクルス　吉田昌弘理事長)
「賛否両論があると思うんです。感染予防という観点からいくと、当然立会いはできるだけ少ない方がいいだろうというのが当たり前だと思うんですけれども、患者にとって当然『立ち会い』『家族で出産してみたい』は当たり前の要求だと思うんですね」

北中さんは「家族全員で見守ってほしい」という思いから立ち会いができるこの病院を選びました。

(北中さんの夫・成和さん)
「最初に親としてその場にいたいという気持ちが1つあるのと、妻が命懸けで出産してくれるので、その時に夫として一緒にいてあげたい」
(北中禎子さん)
「(コロナに)誰もかからずに私もかからずに出産を迎えられたらなと」

家族で臨む出産。子どもたちもその日を待ちます。

　　(成和さん)「赤ちゃん生まれてくるの楽しみですか？」
(長男・良和くん)「楽しみ！めっちゃ楽しみ」

「きょうだい愛みたいなものが見られたのでよかった」

2月16日深夜。ついに陣痛がきました。夫・成和さんが出産の様子を撮影しました。

(北中禎子さん)
「お腹痛い。腰が痛い。いきみたい」
(助産師)
「いいところまで来ているよ」

Kindel
ブランド古着の 査定 なら、絶対の自信があります!

分娩室にはその時を待つ子どもたちもいます。ただ、すぐに赤ちゃん誕生とはいかず、緊張の糸が緩んでいました。

しかし、陣痛が進むにつれ、押し寄せる痛み。いつもと違うお母さんの様子を子どもたちが真剣に見つめます。3歳の彩笑ちゃんはついに泣き出してしまいました。

そして翌日の朝、3524gの元気な男の子が生まれました。

(成和さん)「ありがとうね、禎子さん」

最後まで立ち会ったお兄ちゃんお姉ちゃんたち。

(成和さん)「ずっとかわいい、かわいいって」
(禎子さん)「それを見ると立ち会いさせてよかったね」

家族に加わった新しい命。出産を終えたお母さんに思いを聞きました。

(北中禎子さん)
「弟が産まれて、きょうだい愛みたいなものが見られたのでよかったなと思って。退院してからも安心して帰れるなと思いました」

コロナで変わるお産の形。家族にとってその瞬間をどう迎えるべきなのか。大切な経験だからこそ現場の模索が続いています。